女子生徒の性意識

亀田富子

Ⅰ　はじめに

原始時代には自然で自由だったであろう性行動が、文明の進歩と共に、種々のタブーや抑制を受けるようになり、いつのまにか性はけがらわしいもの、隠すべきもの、我慢すべきものとなった。その考え方が最もいちじるしかったのは、１９世紀のヴイクトリア朝時代の欧米諸国である。しかしその後、性をあるがままに自然のものとして受け入れようという考えに変ってきた。その傾向は第二次世界大戦後にいちじるしくなり、欧米諸国では性の自由化、性の解放が実現したようである。

我が国では明治以来敗戦まで性を「みだらなこと」として抑圧したが、敗戦を境として社会の価値体系が一変し、性に対する態度も自由化された。昭和４０年以後から性教育についての世論調査が始まり、また昭和４７年には、学校保健の学習指導内容として性教育がとりあげられるようになった。現在においては、ますます性教育の重要性が叫ばれるようになっている。

しかし、今だに性教育についての有害論・無用論は根強く存在していると思われる。性教育はしない方がいいのだ、かえって寝ている子を起こすようなものだという有害論と、４０代から５０代の親や教師は「自分は子どものとき、性教育を別に受けなかったが、今日、何ら不都合はおきていない。結婚して子供を作り、夫婦仲よくやっているので困った覚えはない。」という無用論がある。

これらの人たちが育った時代と今日の子どもたちが囲まれている社会的環境には雲泥の差がある。

今は、性の情報化社会といわれるように、非常に豊富な情報源、週刊誌・映画・テレビ・ラジオ・雑誌・マンガ等があり、その氾濫は目をみはるものがある。たとえば、茶の間のテレビからは、濃厚なセックスシーンやヌードモデルがしばしば登場したり、芸術に名をかりたポルノ映画、美の名のもとに扱ったヌードのグラビア等は性を商品化し、人の官能を刺激する。
これらは性的成熟が早期化した子供たちに影響を与えずにおかないであろう。しかもマスコミを通じて提供される性情報は正しいものもあるが、誤ったものもある。

また、この情報を取り入れている子供は、友達に情報を伝える。友達から受けた情報にはその子の情感（意志）が加えられたものになる。したがって情報＋αになって伝えられる。この＋αに問題があるようでもある。生徒の非行・校内暴力・自殺・登校拒否などを引きおこすもとになるのではなかろうか。少しオーバかも知れないが、これを防ぐのが性教育であろう。性教育の知識を深める教科は、保健・生物・倫理社会・家庭であり、情操教育として音楽・美術でもある。

総理府は性に関する調査研究を日本性教育協会へ委託し、昭和４６年と昭和５６年に全国的に青少年の性に関する調査を実施し「情報化社会と青少年」を発表した。この時使用したアンケート内容を借用し、本校の生徒（女子）の性の意識を調査した。

また幸いにも昭和５９年１０月１９日～１１月１２日の間、文部省の海外教育事情視察団として参加できた１つの国デンマークにおける性教育をもあわせて発表する。

Ⅱ　調査について

調　査　者　　１・２学年女子

調査方法	性教育の手引作成に関するアンケート　（高校生用）			
調査の時期	昭和５５年度・昭和５７年度・昭和６０年度の５月			
調　査　数	１学年	５５年度	４６名	
		５７年度	４５名	
		６０年度	５０名	計 １４１名
	２学年	５５年度	４３名	
		５７年度	４９名	
		６０年度	４５名	計 １３７名
	合　計		２７８名	

Ⅲ　調査結果の概要と考察

〔問１〕異性の親しい友達について現在のあなたは１～１１の中のどれにあたりますか。

ア　異性の親しい友達がいない人

1. 年令からみてまだ早いと思うから。
2. 勉強の妨げになると思うから。
3. 現在のところ全然関心がないから。
4. その他。

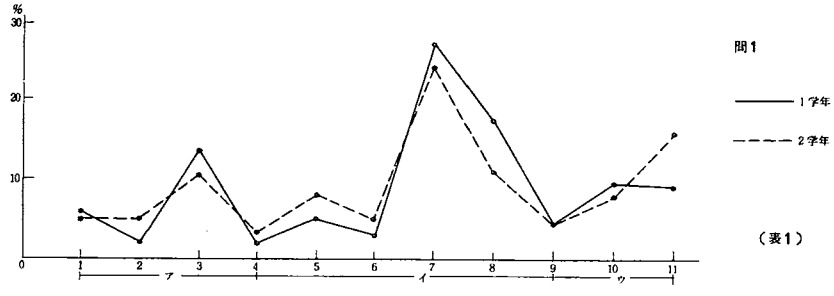
イ　異性の親しい友達がほしいが現在のところいない人

5. 勉強、その他いそがしくて現在のところいない。
6. 交際の方法がわからない。
7. 適当な好ましい相手がいない。
8. はずかしい（内気な）ので。
9. その他。

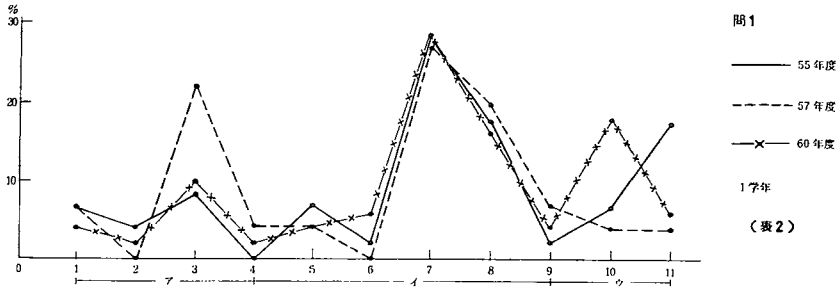
ウ　異性の親しい友達は必要だと思う人

10. 交際する相手をさがしている。
11. 現在親しく交際している。

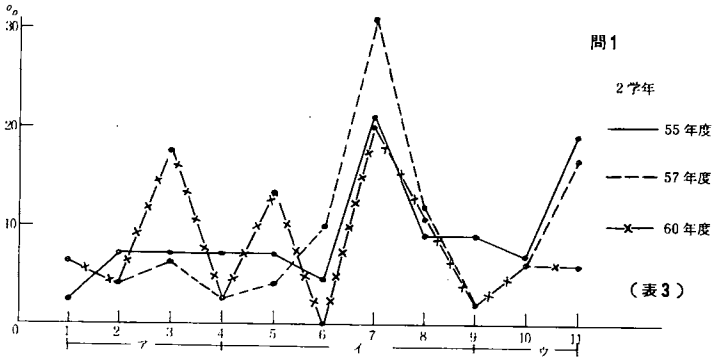
● 結果



（表1）



（表2）



高校期は成人へ移行する過渡期であるから、心身両面において大きく変化がおきる時期である。また性の成熟に伴って、異性に対する関心・性衝動・しゅう恥心・おしゃれ心の高まる時期でもある。しかし本校における女子生徒は、データーから示すように、異性の親しい友達についての関心はうすい。特に目立つのは適当な好ましい相手がいないことである。はずかしい・全然関心がない・勉強その他にいそがしいなどの指示も多い。

表1から２１％の者は異性の親しい友達を必要だと思い、その中９％は相手をさがしており１２％の者は親しく交際している。親しく交際をしている者の中には、学習効果の励みになっている者と妨げになっている者がいる。学習面に悪い影響がある者については、よい交際の仕方を指導する必要がある。

２４％の者は異性の親しい友達がいない。なかでも全然関心がない者は約１２％いる。勉強に忙がしくそれどころではないというのが事実であろう。また友達がほしいのだが現在はいない者が53.2％である。特に高率を示すのは適当な好ましい相手がいない者２６％で、１４％の者は、はずかしいので異性の友達を作れない者である。

１・２年生を比較すると、１年生では、全然関心がない・適当な好ましい相手がいない・はずかしいの３項目が２年生より上位を示し、一方２年生においては、親しく交際をしている者が１年生より多い。

各学年を年度別に比較すると（表２）５５年度は１年生でも親しく交際している者が目立っている。５７年度の１年生は全然関心がない項目が５５年・６０年度に比較して２倍も多いことが特徴である。６０年度の１年生は交際の相手をさがしている者が多いのが特徴である。

２年生においては、５５年度は特徴がないが、５７年度は、適当なこのましい相手がいないのを選択した者が多い。６０年度は、勉強にいそがしく、全然関心もなく、友達とも交際をしていないのが特徴である。

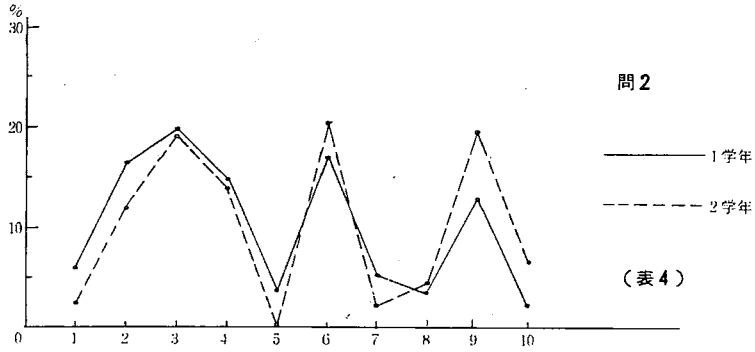
また全国平均と比較すると、異性の友達をもとめている者は１５才で８５％・１６才で９２％に対して、本校では１５才で57.4％・１６才で15.3％と学年が進むことにより、かえって減少している。交際する相手をさがしている者は１５才７０％・１６才で78.3％に対して本校では１５才で9.9％・１６才で8.0％であり大変少ない。また親しく交際している者は、１５才15.4％・１６才で24.5％に対して本校では１５才で9.2％・１６才で15.3％である。

100％の大学進学を希望する本校においては、勉強一筋に生活をし、異性の友達と親しくすることを考えるいとまもないことを示している。

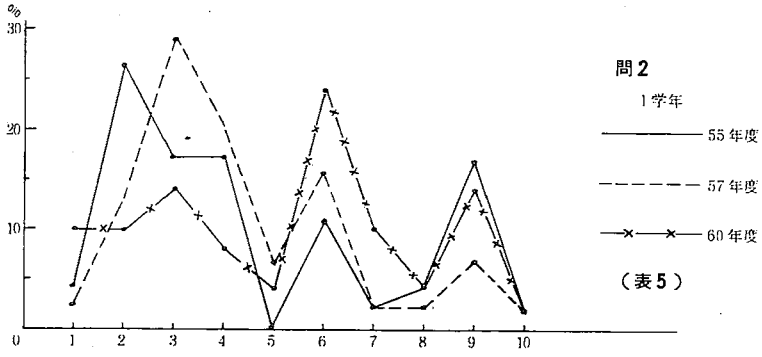
〔問２〕高校時代の男女交際についての限界は、どの程度までの行為が許されてよいと思いますか。

1. 特定の男女交際の必要はない。

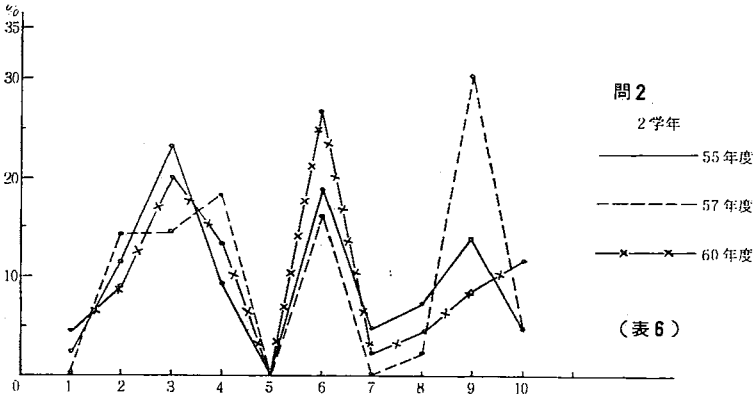
2. 文通や1対1で話し合う程度まで。
3. 強い好意または、愛情を感じる程度まで（プラトニックなもの）。
4. 手をにぎったり、肩や腕を組む程度まで。
5. 抱きあう程度まで。
6. キッスまで。
7. 衣服でかくされた体の部分にふれる程度まで。
8. 愛情があれば、すべて体をゆるしあってもよい。
9. わからない。
10. その他。



（表4）



（表5）



（表6）

高校時代の男女交際についての限界はどの程度まで行為が許されるかについては、３つの山がある。表４からもわかるように、プラトニックなもの、キスまで、わからないの項目が高率を示め、手をにぎったり肩や腕を組む程度とか、文通や１対１で話し合う程度がこれについでいる。

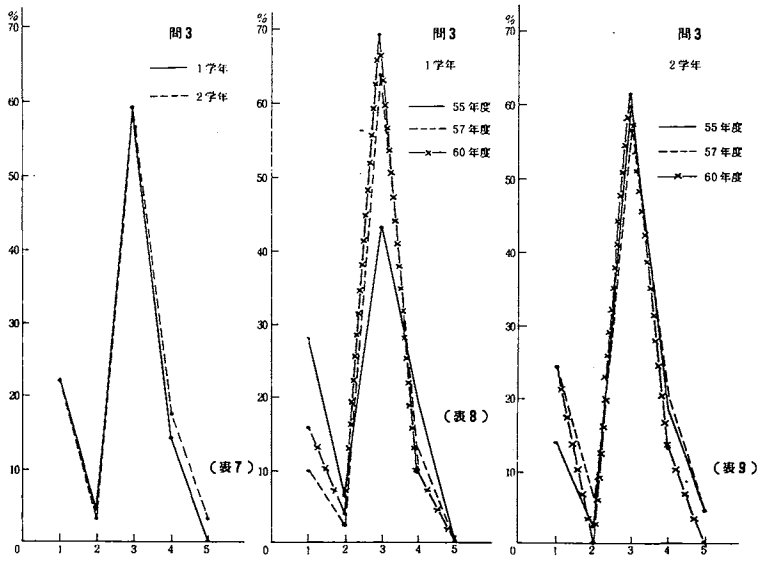
１学年を年度別（表５）にみると、昭和５５年度は文通までが最も多く、これにつぐのがプラトニックなもの・手をにぎるまで・わからないなどの項目である。昭和５７年度ではプラトニックなものが特別に多く選択され、つぎに手をにぎる・キスまでの選択者である。昭和６０年度になるとキスまでの選択者が多い。この年度別の特徴的な動きは、時代の流れによるものと感じられる。

また２学年（表６）では昭和５５年度はプラトニックについでキスまでであり、昭和５７年度ではわからない選択者が格別多いのは、場合によってはどうなるかわからないというまよいであろうか。昭和６０年度ともなるとキスまでが常識だと思っている。

全国平均と本校のを比較すると①～⑤の抱きあう程度まで、全国平均10.5％・本校53.8％、キスまで、全国平均25.8％・本校18.7％、衣服でかくされた体の部分、全国平均20.6％・本校3.6％、愛情があればすべてを、全国平均10.7％・本校4.0％、わからない、全国平均28.6％、本校16.2％、その他、全国平均3.8％、本校4.3％であった。これからも本校生徒は、自分を大切にし自分の行動には責任をもっていることがよくわかる。

〔問３〕現代の社会における男女交際について、あなたはどう思いますか。

1. 男女交際は自由になったというが、若い男女の交際は良くないと考える風習が根づよく残っていると思う。
2. 近年男女交際は自由になり、性に対する考え方も解放されだんだん良い社会になってきたと思う。
3. 男女交際や性に対する現在の社会風潮（傾向）は混乱していてマスコミなどに行きすぎが多いように思う。
4. 男女交際や性に関する現代社会の現状については、どう考えたらよいかわからない。
5. その他。

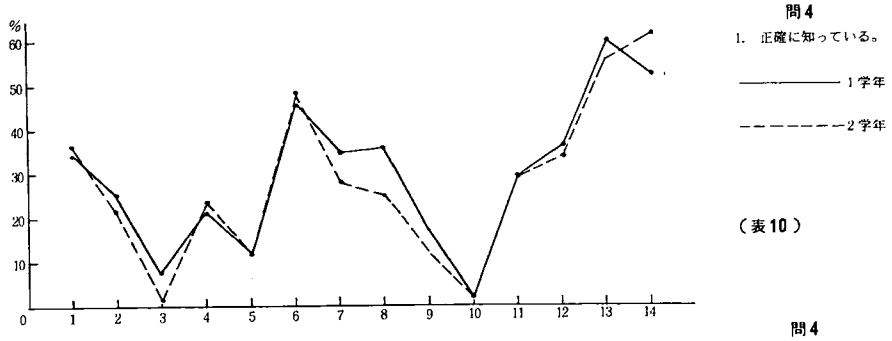


男女交際や性に対する現在の社会風潮は混乱していて、マスコミなどに行きすぎが多いという項目に、７０％の者が指示しており、つぎに男女交際は自由になったというが、若い男女の交際は良くないと考える風習が根づよく残っているの項目である。

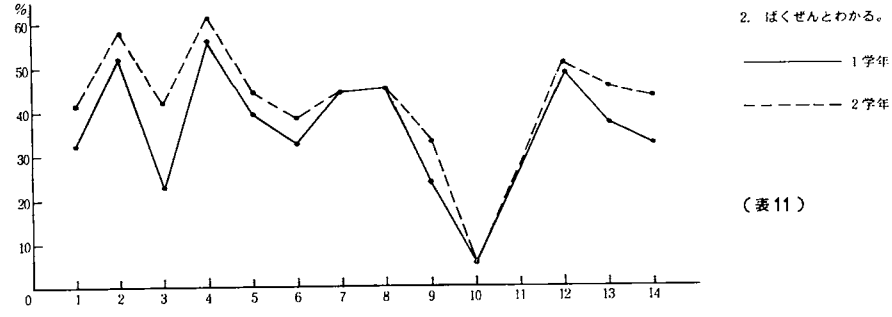
封建的な生活習慣がまだ残っているこの地方で、無謀な行動にはしりやすい高校時代には大変よいことである。またマスコミに左右されない正確な判断を身につけてることは、本校なればこそと思われる。

〔問４〕次の事項について（1. 正確に知っている。 2. ばくぜんとわかる。 3. わからない。）の要領で番号を記入してください。

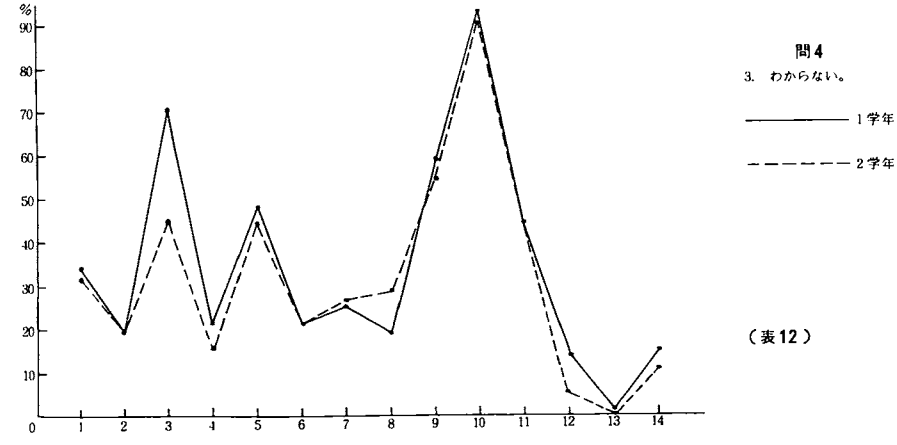
1. 第二次性徴	2. コンドーム	3. 荻野式	4. ペッティング
5. 淋　病	6. 童　貞	7. 夢　精	8. ペニス
9. 亀　頭	10. 性　索	11. 膣	12. 処女膜
13. つわり	14. 排　卵		



（表10）

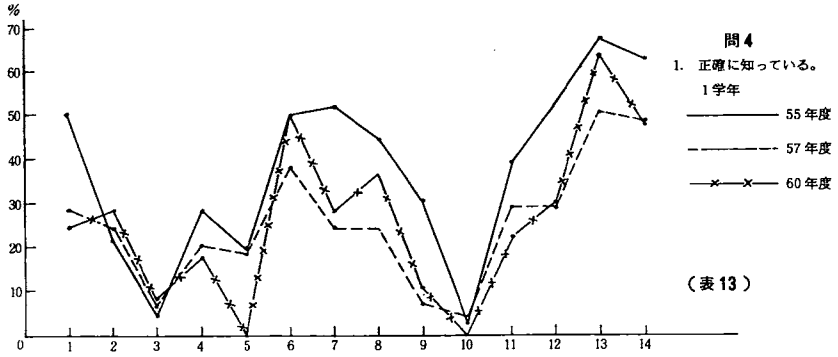


（表11）

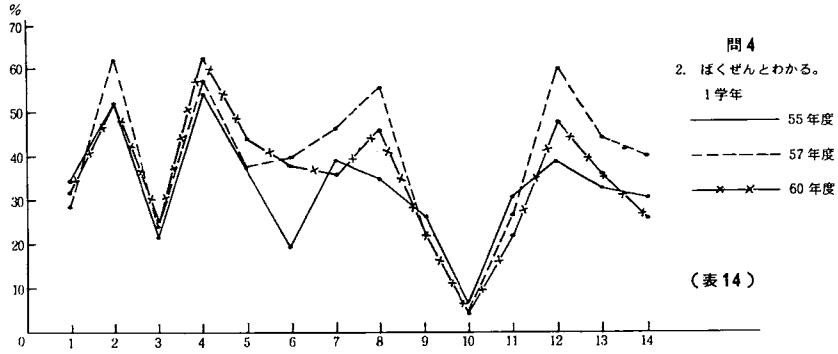


（表12）

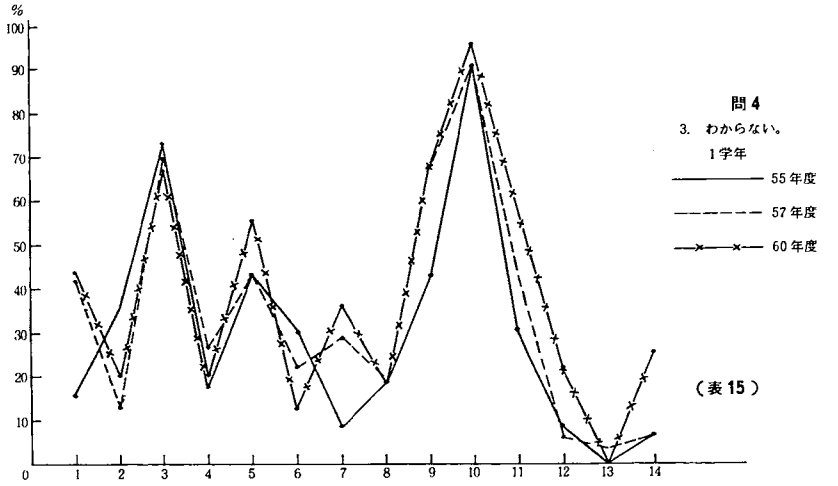
１・２年生の５０％以上が、正確に知っていると答えたのはつわりと排卵で、これにつぐのが童貞である。（表10）５０％以上ばくぜんとわかると答えた者は、コンドーム・ペッティング・処女膜である。（表11）わからないと答えた７０％以上の者は、性索・荻野式である。性索は殆んどの者（９０％以上）が知らなかった。いずれも避妊の方法である。つぎに淋病である。この調査を実施した時期には健康な家庭生活を講義していないのでわからないのも当然だと思われる。（表12）



（表13）

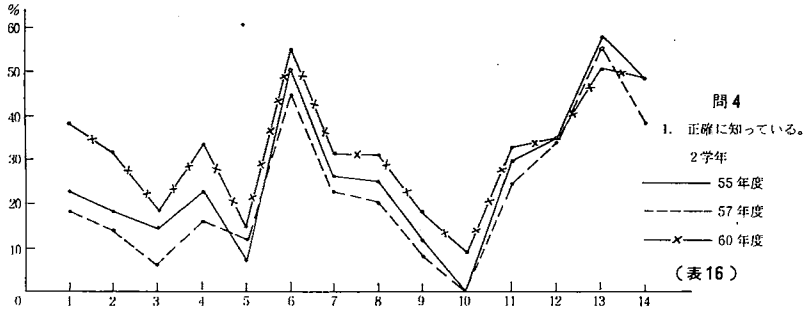


（表14）

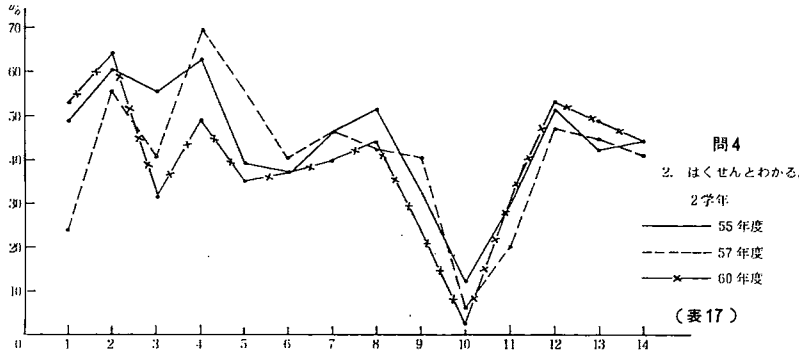


（表15）

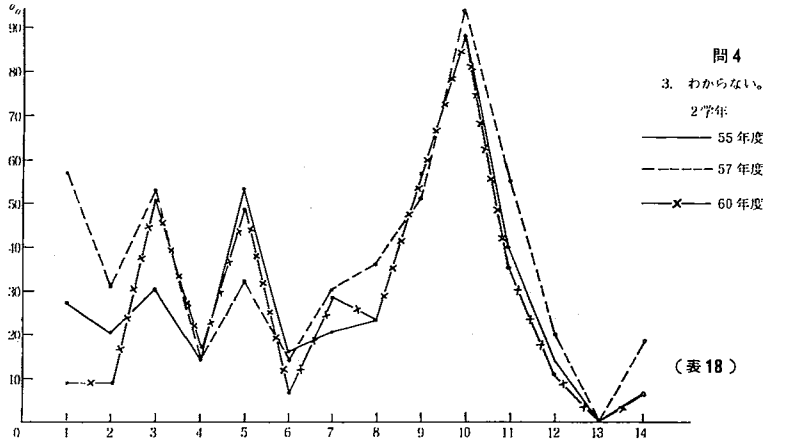
１年生の昭和５５年度の二次性徴・夢精・亀頭・処女膜・排卵は正確に知っている者が他の年度に比し多い。淋病は昭和６０年度の者は全員知らなかった。性索においてはどの年度の者も知らないのが殆んどである。ばくぜんとわかるものの中で昭和５７年度の特徴がコンドーム・ペッティング・ペニス・処女膜である。１年生でわからないと示したのは、昭和６０年度の者が多い。それは二次性徴・淋病・夢精・亀頭・性索・膣・排卵であり、１年生は年度により特徴が現われている。



（表16）



（表17）



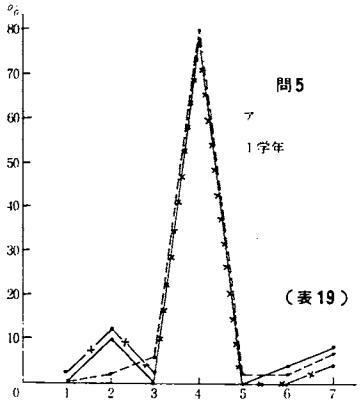
（表18）

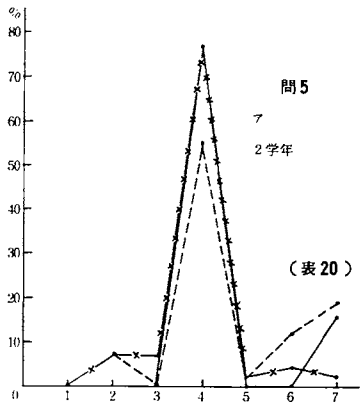
２年生になると昭和６０年度の者が正確に知っている項目が多く、二次性徴・コンドーム・ペッティングは特に他の年度よりも高率を示している。ばくぜんとわかるの項目中、昭和５７年度の二次性徴がわからない者が多いのは何故だろうか。またペッティング・淋病は二次性徴と反対に高率を示している。わからないと示す者の中で各年度の特徴がでているのは、二次性徴・荻野式である。

〔問５〕性についての知識や情報をおもにだれから、また何によって得ていますか。ア・イそれぞれから該当するものを選びなさい。

ア、1. 父　2. 母　3. 先生　4. 友人　5. きょうだい
6. 先輩や年上の人　7. その他

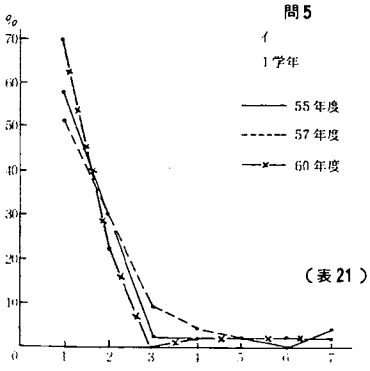
結果

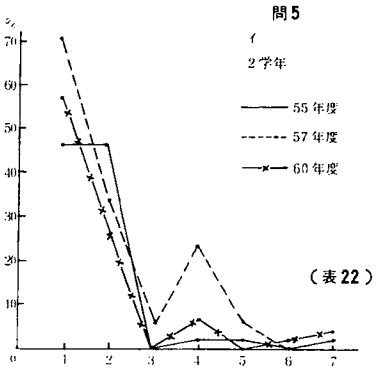




イ、1. 本・雑誌・新聞　2. 週刊誌・マンガ　3. 辞典・参考書など
4. ラジオ・テレビ　5. スライド・映画　6. 動物の性行動
7. その他

結果



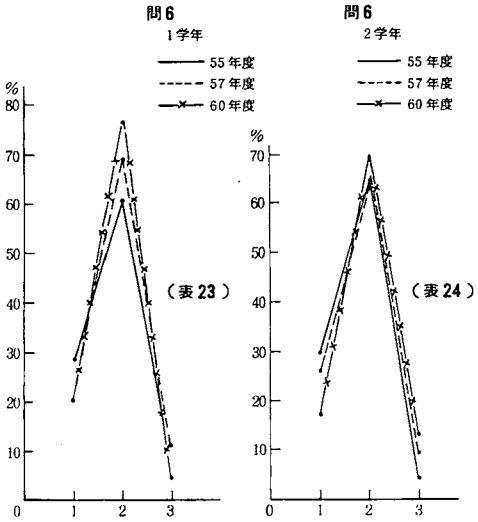


アにおいては圧倒的に友人からの知識や情報を得ており、イにおいては本・雑誌・新聞・週刊誌・マンガである。ラジオ・テレビは昭和５７年度の２年生にのみわずかに多く現われている。

総理府調査（５７年）によると、1. 友人、2. 学校の授業、3. 母、4. ラジオ・テレビ 5. 父、6. マンガ、7. 週刊誌、8. 先輩や年上の人の順であった。
また、大和高等学校では 1. 友人・先輩38.2%、2. 週刊誌27.3%、3. ラジオ・テレビ15.9%、4. 学校の授業6.8%、5. 単行本3.6%、6. 両親・兄弟 7. 無答2.3%、8. 映画0.9%である。
一般に性の事は非常に重要でありながら大部分の知識は雑誌や書物を通じており、また性についての広い常識は、同性の友達から得ることが多い。それが案外同じ成長期にある青年期の性の問題処理に役立っている面も多いのではないかと考えられる。

〔問６〕性について、現在の知識よりも深く知りたいですか。

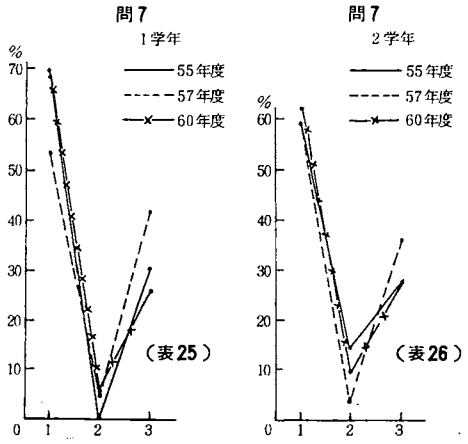
1. もっと深く知りたい　　2. 現在の程度でよい　　3. これ以上知りたくない



1･2年生とも７０%の者は現在の程度でよいと答えている。本当は知らなければならないと思うが、知ったあとがこわい。また常識程度に知っていればいいと思う。深く知ると性に関していやな考えを持ちそうだから、別に急がなくても自然にわかるようになるだろうからという意見もある。また重要なことなので将来あやまった知識で困ることがないようにしたい。将来結婚することになったとしたら、今の知識では不安である。まちがいを起さないようにしたいから、いろいろと正確なことを知りたい避妊法を知らないから、性については全く知らないと言っていいくらいだから、何についても知識があることはよいと思う意見もある。

〔問７〕自慰（マスタベーションまたはオナニー）の経験について、あなたはどうですか。

1. 経験はない　　2. 経験している　　3. 意味がわからない



自慰は経験がないと答えたものが圧倒的であり、意味がわからない者とを合わすと、９０%以上は経験しない。昭和５５年度は２年生になって自慰を経験しているものが他の年度より多い。また１年生より２年生になると自慰を経験している者がほんのわずかに多くなっている。
日本性教育協会の資料によると１５才で、1. 経験はないのが90.9%、2. 経験している4.5%、3. 意味がわからない4.6%であり、その後の調べによると、経験している者が１８%に増加し、全国的には毎年多くなっているようである。

〔問８〕自慰をおぼえた動機はどこからですか。（問７の２と答えた人だけ答えてください）

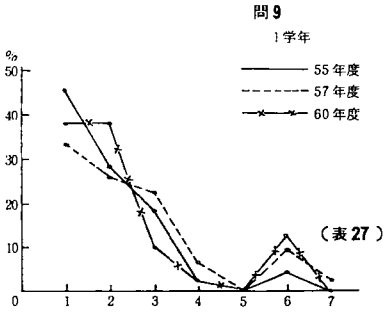
1. 自然に　2. 友人・先輩　3. 先生　4. 雑誌・書籍など　5. 家族・同居人など　6. その他

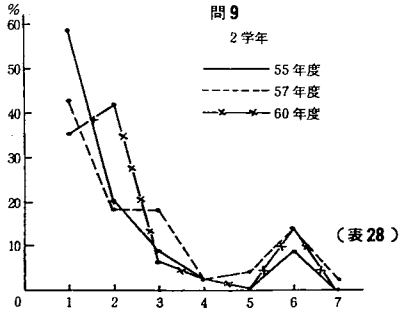
	年度	人数	1	2	3	4	5	6
一学年	55	46	0	0	0	0	0	0
	57	45	2	0	0	0	0	0
	60	50	3	0	0	0	0	0
二学年	55	43	4	0	0	2	0	0
	57	49	1	0	0	4	0	0
	60	45	1	2	0	1	0	0

左図からもわかるが自然に自慰をおぼえている。また２年生になると雑誌・書籍から自慰を経験するようになる。

〔問９〕妊娠には、男女の性の交わりがあることをはっきり知ったのはいつ頃ですか。

1. 小学校時代　2. 中学校１年　3. 中学校２年　4. 中学校３年　5. 高校１年　6. はっきりわからぬ　7. その他

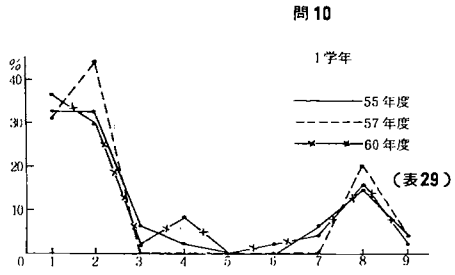


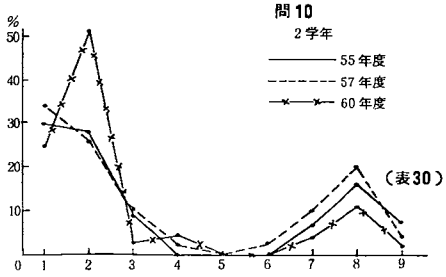


ほとんどの者が小学校時代に性の交わりがあることを知っている。日本性教育協会の資料によると、中学校１年では57.2％、中学校２年では72.4％、中学校３年では84.4％である。本校では、中学校１年では71.3％、中学校２年では85.6％、中学校３年では88.5％である。いずれも中学校１年か中学校２年になる時に性の交わりを知る者が多い。一段と性の交わりを知るのは小学校から中学校１年に進む時である。

〔問10〕男女の性の交わりについて、はっきり知ったのはなにからですか。

1. 雑誌・週刊誌など　2. 同性の友人　3. 異性の友人　4. 学校の授業　5. 性交を見て　6. 動物の交尾を見て　7. テレビ・映画　8. はっきりわからぬ　9. その他





はっきり性の交わりを知ったのは、同性の友人、雑誌、週刊誌、はっきりわからぬの順である。本は青少年向きの性に関する本、辞典、医学書などで知たようである。

〔問11〕現在の不安や悩みについて、また、おもなものを３つ以内でえらんでください。

ない場合にアを、ある場合は１～17から選び５・17番の場合は（　）内に記入してください。

ア、特に不安や悩みなし

イ、1. 身長　2. 体重　3. 容姿　4. 体臭　5. 健康について　6. 発毛　7. 夢精　8. 生理　9. 乳房の発達　10. 性器　11. 自慰　12. 男女交際　13. 自分の性格　14. 親子関係　15. 人生観・自分の将来　16. 学校の成績　17. その他

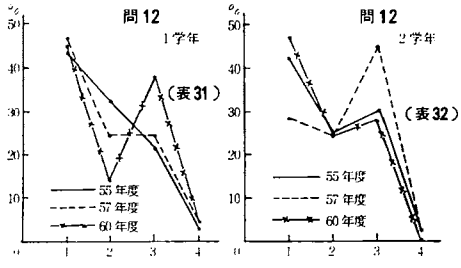
		５５年	５７年	６０年		５５年	５７年	６０年
ア	1学年	6	4	4	2学年	6	8	2

	年度	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
一学年	55	46	7	9	1	12	1	0	0	2	4	0	0	4	18	3	22	20	0	0
	57	45	8	14	0	13	2	2	0	4	7	1	1	5	17	3	19	21	1	0
	60	50	7	16	6	10	2	0	0	3	6	0	0	13	23	5	19	18	0	0
二学年	55	43	2	10	0	4	1	1	0	1	3	1	0	7	16	2	24	23	0	0
	57	49	4	15	1	6	5	1	0	2	3	0	0	3	19	2	23	22	0	0
	60	45	7	12	0	6	2	2	0	1	7	0	0	9	19	0	24	21	0	0

年度を経るにつれて、不安や悩みのない者は少なくなっていく傾向がある。１年生の不安や悩みの多い順にあげると、１）人生観・自分の将来、２）学校の成績、３）自分の性格、４）体重、５）体臭、６）身長・男女交際であり、２年生では１）人生観・自分の将来、２）学校の成績、３）自分の性格、４）体重、５）男女交際、６）体臭である。体臭が各学年に5･6位を示しているのが意外である。年度による差はみられない。人生観・自分の将来・自分の性格などの不安、悩みをもつ者が多いのは丁度、自己にめざめる時期でもあるためだろう。また、100％の進学を希望する本校においては、成績についての悩みをもつのは当然のことである。

〔問12〕あなたが将来結婚する場合、相手の純潔であることを望みますか。

1. 望む　2. あまり強く望まない　3. そういうことは問題にしない　4. その意味がわからない

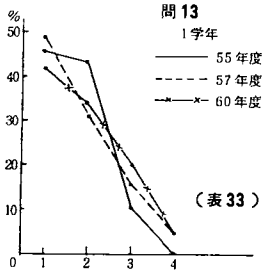


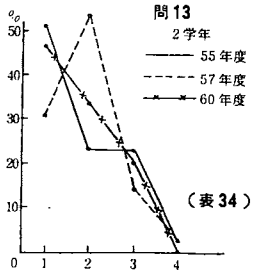
年度・学年をとわず、相手の純潔であることを望む者が多いが１年生の昭和60年度と２年生の昭和57年度は、あまり問題にしないという者も意外と多い。

性教育協会の資料によると童貞である方がよい12.3％、ない方がよい12.1％、こだわらない59.3％、わからない16.3％であり、全国的な資料と特に異なるのはこだわらないと童貞である。現代の乱れた社会でありながらも約４０％以上の者が童貞を望むものが本校生に多いのは、堅実的である。

〔問13〕あなたは将来結婚するまで、純潔を保とうと思いますか。

1. 絶対に純潔でありたい　　2. できるだけそうでありたい
3. そういうことは問題にしない　　4. その意味がわからない



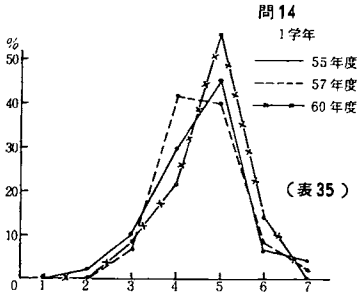


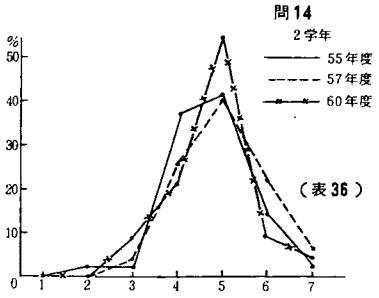
約８０％の者が、絶対に純潔でありたい。できるだけそうでありたいと望んでいる。

全国平均では結婚まで処女童貞でいたい、25.6％、処女童貞でいたくない5.6％、処女童貞にこだわらない50.8％、わからない18.0％であった。大きな差異がみられるのは、絶対に純潔でいたい、こだわらないの項目である。本校生は堅実的な考えのもとに行動されている。

〔問14〕つぎのどの場合に純潔でなくなったと思いますか。いずれも結婚前の男女について考えてください。

1. 手を握る　　2. 自慰　　3. キッス　　4. ペッティング
5. 性交　　6. わからない　　7. その他





性交もしくはペッティングをした時純潔を失うと思っている者が殆んどである。問12・13・14からもわかるように、感情に走って理性を失うことのないように生活をしていることがよく理解できる。

〔問15〕あなたは男性・女性の理想像についてどのように考えますか。

男性・女性としてこのようにありたい、このようにあってほしい特性で、まずとりあげたいもの二つあて選びなさい。

ア、男性としてぜひ欲しい特性

	学年	年度	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ア	一学年	55	46	2.2	3.3	20.7	3.3	8.7	9.8	2.2	2.2	15.2	16.3	0	0	3.3	0	1.0	6.5	0	1.0	4.3	0
		57	45	2.2	2.2	12.2	5.5	13.3	6.6	3.3	1.0	18.9	11.1	0	0	4.4	0	1.0	12.2	0	0	5.6	0
		60	50	2.0	4.0	13.0	7.0	8.0	4.0	3.0	0	27.0	9.0	2.0	0	10.0	1.0	2.0	3.0	0	0	5.0	0
	二学年	55	43	2.3	8.1	15.1	3.5	12.8	4.7	2.3	1.2	11.6	11.6	0	0	4.7	1.2	0	14.0	0	0	7.0	0
		57	49	2.0	1.0	19.4	7.1	11.2	9.2	1.0	3.1	11.2	13.2	1.0	0	12.2	0	1.0	2.0	0	1.0	3.1	1.0
		60	45	4.4	3.3	8.9	10.0	3.3	10.0	4.4	1.1	16.7	13.3	2.2	0	5.6	3.3	1.1	5.6	1.1	0	5.6	0

女性からみて男性としてぜひ欲しい特性をベスト８まであげるならば、全体では１）やさしさ、２）責任感、３）誠実さ、４）実行力、５）決断力、６）さっぱりとした気性、７）あたたかさ、８）勇気である。また学年毎に比較すると次の通りであった。

1学年は1）やさしさ、2）責任感、3）誠実さ、4）実行力、5）さっぱりした気性、6）決断力、7）あたたかさ、8）勇気である。

2学年は1）責任感、2）やさしさ、3）誠実さ、4）実行力、5）決断力、6）あたたかさ、7）さっぱりとした気性・勇気である。

イ、女性としてぜひ欲しい特性

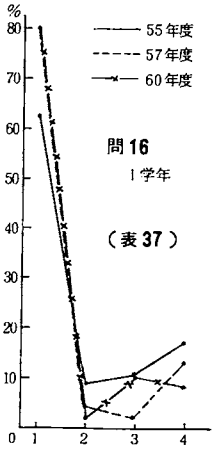
	学年	年度	人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
イ	一学年	55	46	3.3	1.0	1.0	2.2	1.0	2.2	0	9.8	28.3	4.3	2.2	0	17.4	5.4	1.0	2.2	17.4	1.0	0	
		57	45	2.2	0	1.0	0	1.0	0	0	10.0	27.8	4.4	3.3	0	18.9	4.4	2.2	6.6	17.8	0	0	
		60	50	2.0	1.0	4.0	1.0	0	0	0	5.0	34.0	7.0	1.0	0	13.0	9.0	0	4.0	17.0	2.0	0	
	二学年	55	43	3.5	1.2	2.3	1.2	2.3	0	0	10.5	25.6	7.0	2.3	0	9.3	7.0	0	5.8	19.8	1.2	1.2	
		57	49	4.1	0	3.1	2.0	2.0	2.0	1.0	11.2	26.5	4.1	2.0	0	10.2	5.1	1.0	2.0	21.4	1.0	0	1.0
		60	45	1.1	1.1	2.2	1.1	0	0	0	8.9	25.6	7.8	1.1	0	17.8	10.0	3.3	2.2	15.6	1.1	0	1.1

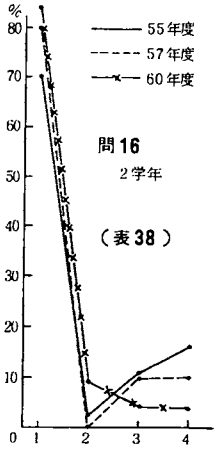
女性からみて、女性としてぜひ欲しい特性は全体的にみると、1）やさしさ、2）こまやかな感情、3）あたたかさ、4）明朗さ、5）清潔感、6）誠実さ、7）さっぱりした気性、8）根気強さである。学年別にみても1～5までの選択順序に変化はない。女性らしさが現われている。

ア・イにおいて、男・女性に全然選択されない項目は同情心であった。また男性として欲しくない特性は、こまやかな感情、親切であり、女性として欲しくない特性は、正義観・たくましさである。

〔問16〕あなたは結婚についてどのような形式を望みますか。

1. 恋愛結婚　　2. 見合い結婚　　3. 考えたことがない　　4. その他





恋愛結婚を選択した者が殆んどである。その他として、見合でも恋愛でも相手を愛することができるようになったとき結婚するなどの意見がある。また結婚を望まないのもいる。

以上16の問題についてまとめてみたが、本校生は情報化社会の混乱した中で自分をしっかりみつめ、自分の行動には責任をもっていることがよく理解できる。

Ⅳ　保健講話の感想文

金沢聖霊病院産婦人科医長、大下陸郎先生が某高校で講演されたその内容をプリントしたのがあった。この内容は女性の性器・性交・男女の交際などについて多方面からとらえている。この講話について本校生（女子）はどのようにとらえているか感想文を書かせた。それを記載する。

A　子

こう極どい話をされても、全然実感が湧かない。私自身にそういった経験が全くないからである。実際そういうことはよく起こっているのだろうか。人事、現実離れした楽しいうわさ話という感じで考えてしまう。女の子は１５才頃で精神的に大人になるというけれど、私はまだみたいだなと思う。やっぱりまだ、プリントに書いてあるようなことは考えたくない。いつまでも清純でいたいなぁなどと、夢のようなことを考えてしまう。実際、本当に男子とはこんなに冷たいものだろうか。なんだか悲しくなってしまう。暴力団の人など仕方ないかと思うが、普通の人までそうだなんて思うと、なんだか男性不信になってしまいそうだ。そんなに女の子と寝たいのか、本当にそれで楽しいのかと聞きたい。

でもそんな欲望だけで生きているような人ばかりでは、決してないと私は思う。本気で心から思っている人だっていなければ、結婚なんて意味のないものになってしまうだろう。私は女性にだって、多少は悪いところがあると思う。そんないい加減な男につけ入られるような女の子は本当に好きになってくれる男性はいないと思う。私は、そんな女性にはなりたくない。道具ではなく、人間として扱って欲しいと思うから。プリントに「結婚したい女性」の条件が書いてあった。いささか男性の身勝手のようにも感じるが、この言葉を信じたい。またそうでなければいけないと思う。

B　子

あまりにも率直に分かりやすい文章で書いてあるので、初めはちょっと戸惑った。自分でも知っていることがあるし、自然なことを書いてあるだけなのに、なぜかもどかしい。

でも実際に私達の年頃は何でも知っているようで、そのほとんどは本当に大切なことを理解していないように思える。だから表面では「こんなこと恥しい」などと言って笑ってごまかしていても、自分自身ではまじめに考えなくてはならないことだと、みんな思っているのじゃないかなぁ、と思う。

ところでこれを読んでいちばん強く感じたのは、女の人って大変だなぁ、ということだ。子供を産むときに苦しむのだって、結局は女のほうだけなんだし、無理やり乱暴された時も傷つくのは女の人だ。だからなおさら女の人は、しっかりしなければならないのだと思う。こんなことは、まだ早いから関係ないといってはいられない。またこれを読んでいるうちに、男の人がみんな悪く思えてきた。確かに世の中にはここに書かれているようなひどい人ばかりではない、やっぱり女の人は異性と交際する時、一歩先のことまでよく考え、それでいいのか判断することが必要だと思う。

C　子

新しく知ったことがたくさんありました。ただただびっくりするばかりです。マンガなどで時々、セックスのようなかんじのシーンを見たことがあったけれど、こういうふうに学問的に改めていわれると、なんとなく変な感じがします。

いやだなぁ、こわいなぁ、私のこれまでの子供が欲しい気持ちが変わっていくようです。いやだなぁ、ちょっぴり恥ずかしいなぁ。

もしいやだといっても、子供を作るとなると仕方がない。その時はお互いが本当に心から愛し合っていなければならないと思うし、また私自身そうでありたい。軽い遊びのつもりでは絶対にしたくない。遊びでできた子供がかわいそうだ、中絶されるなんて……残酷だ。
遊びでしようとする男性は腹が立つ。女を何んだと思っているのだ。性交の対象のみとして存在しているのじゃないぞ。といいたくなる。だからさっきいったように、相手の男性を慎重に選ぶ必要があるなぁとつくづく思う。

さっき嫌だ嫌だと連発したけれど、１つの生命をつくりだすことは喜びだし、女として素晴しい仕事だと思う。将来いやだけれど、もし子供ができたとしたら、その子供が自分にとって幸福であることを願う。後悔しない結婚をして、相手と一体となり、生命を産み出すことの素晴しさをかみしめたい。

D　子

今の若い人達は、性のことを安易に考えすぎる、という感は常日頃から抱いていた。性行為には必ずといっていいほど妊娠がつきものである。どうせ堕胎し、心身共に傷つくのだ。それだけではない。お腹に宿った尊い生命を殺すのである。明らかに殺人行為である。こんなことが、日常茶飯時であるとは何と悲しいことだろうか。少なくとも私はそんなことはしたくない。

男女間の恋愛に対する考え方が違うのは確かにそうだ。男の人は全部すませなければ気がすまないところがあるのに対し、女の人は手を握っただけで充分だというところがある。その隔たりが女の悲劇を生むといってもいい。女の人は決して安易な考えを持ってはいけない。そうつくづく思う。後で損をするのは女の人なのだ。

しかし最近、男の人の中でプラトニックスラブを望んでいる人が少ないのは事実である。それは女の人の方が精神面で男の人を上回っている証拠なのだろうか。

学生同志の恋愛なら、お互いの精神を育くみあうことだけでも、かなりの価値があると思う。肉体的なつながりより、精神的なつながりを重視したい。

この感想文からもわかるように、高校生は殊に女子は性より愛に関心を持ち、直接的な性行動に関する知識より　異性との愛情や心の連帯についての知識を求めている。

それにもかかわらず、少女雑誌などにのせられている性体験記は、現実性を帯びて、読者に自分が遅れているという錯覚を起こさせ「皆がしているのに、自分がしないとバカにされる」というように、ひとつの流行的な性体験遊びとして性をとらえる風潮をあおっていると思われる。

しかし現状はマスコミ等が賑々しく騒ぐほど踊ってはいない。

Ⅴ　北欧での性

デンマーク・スウェーデンは同じカリキュラムで性教育の義務化が行われている。

国家教育委員会による教師用手引書をもとに1956年から義務化して性教育を実施している性教育指導要領はそれよりも早く1940年に出されている。その後この手引書は、現代社会にそぐわないという批判、非難をあびて1964年から1974年までの調査研究期間をへて1977年に新しい教師用の手引書が出されている。

義務化とか必須といっても独立した科目が存在するわけではない。自然科学や生物・社会・宗教等の科目の中で学ぶことになっている。

その内容は生理・解剖学的側面は古いものと大差はないようであるが、表題が「性教育」から「性と人間関係」に変ったように、人間関係、協力、愛情、友情、相互理解などに重点がおかれるようになっている。

低中学年での内容は、月経、射精、マスターベイション、避妊、不妊症、断種、性交、出産、性器の構造と機能、性的異常などとなっており、これに性関係における倫理・道徳・宗教的側面が組み入まれている。

高学年ではこのほか、家族計画・性病・だ胎・売春・ポルノなどが加わる。

性教育の担当教師は中学校では主に生物科の教師が生理から避妊まで指導し、その他モラル面では宗教関係の教師が担当している。初等教育は９年間にわたって行なわれ、１～３年は各

クラスの担当教師が当たる。

デンマーク・スウェーデンの性教育は、他の教科と全く独立して行なわれるものではない。それは全体の教育の一環として組み込まれており、与える時期やその程度については、一切教師の選択に任せられている。

高等学校では主に生物担当の教師がこれに当たるが、学校によって、また担当教師によって実施内容はかなり左右されると思う。年間6時間のカリキュラムを組んでいる。専門的な講師を招き講演会のような形式で実施している。

ポルノが自由化されているデンマークでも、人の意志を無視して家庭の茶の間に飛び込んでくるテレビに、きびしい規制が行われている。わが国のテレビにも一応の倫理規定はあるが、現実には、ドラマの視聴率が落ちたりすると、少しはポルノ的場面も入れると聞いている。

またデンマークやスウェーデンでは本屋やポルノ店で青少年が立ち読みしている姿は殆んど見かけない。一般文化の中で人間関係の一部としてのセクシュアリティの理解や男女平等の思想が行きわたっており、青少年がそれを理解し、自分の責任で性に関する意志決定をする能力を確立しているからであろう。

我が国では刑法、175条でわいせつ文書などの頒布や販売は禁じられ、公安または風格を害する書籍などの輸入は禁じられ、また地方自治体では青少年健全育成条例を設けて、有害図書等の販売を制限しているところもある。先進諸国の中では最もきびしい取締基準をしている。それにもかかわらず、実際には青少年にとって好ましくない性情報が巷に氾らんし、書店には青少年向きのビニ本が並べられたり、性的記事やマンガを並べたコーナーが設けられ、そこに多くの青少年が群がったり、立ち読みしている。日本と北欧の違いがみられる。1964年のスウェーデンの性教育内容を例記する。

スウェーデンの性教育内容（1964）

（14才～16才）生徒を対象　　ユネスコ教育研究所での国際会議

1. 両性間の相違
   解剖学・生物学・生理学・情緒・心理学・遺伝学・ホルモン・月経・自慰行為
2. 男女関係
   情緒的魅力・責任・他人に対する思いやり・自制心の重要性・婚前関係・アルコールと麻薬の危険性・道徳的倫理的社会的問題が含まれる。
3. 出　　産
   受胎現象・胎児の成長・妊娠・出産・妊娠と出産の心理的問題・出産準備と誕生後の子どもの養育についての指導
4. 片親家族
5. 不妊症・男性の性的不能と性欲減退
6. 人工妊娠中絶
7. 受胎調節
8. 月経閉止
   更年期とその原因・配偶者との関係
9. 性　　病
10. 性的変態
11. 性教育の継続
12. 余暇時間の利用

Ⅵ まとめ

高校時代は身体面の性的発達が完成に近づき、充実期に入るので、男性への接近は高まるが反面幸か不幸か、この年代が激しい受験戦争のさなかにあり、性行動は低くおさえられている。

高校時代は単に個人の勉強だけのためにあるのではなく、将来、社会人として貢献できる人となる素地をつくる期間でもある。自分のための自分であると同時に、社会の中の一員としての責任を分担し、社会生活の縮図を経験するのである。それには日常生活の基本的ルールを理解すると同時に実行できるようにする。すべて自主的に考え実行し、その結果に関しては責任をもつことを指導する。相手の立場と自分の立場を平等に考え、お互の人格を尊重し、異なる考えに対しては尊重と寛容でなければならない。そしてよい人間関係を作り上げるように心がけさせることである。

男女交際について禁止や抑圧をするのではなく、男女の性の生理や心理をよく理解させたうえで、エチケットやマナーを守り、相互の理解を深め、敬愛と協力の精神をもって豊かな人間関係へと発展できるように指導する。

そして女性の性を金もうけの手段として利用するマスコミや性産業に対する批判の目を持たせ、正しい性情報を選択する能力を養わせなければならない。

両親の生活を通して、思いやりの心や平等な人間関係に基づく協調を学ばせ、男女関係が人間の幸福をもたらすことを理解させると共に、性に対してけがらわしいもの、いやらしいもの恥ずかしいものというような暗い見方を与えないで、健康な明るい見方ができるように育てることが大切である。

参考文献

1966年　学校保健研究
1971年　青少年の性行動　　日本性教育協会
1974年　学校保健研究
1975年　学校保健研究
1976年　学校保健研究
1979年　学校保健研究
1980年　保健体育教室
1980年　教育と医学
1981年　学校保健研究
1981年　青少年の性行動　　日本性教育協会
1981年　現代性教育研究
1982年　学校保健研究
1982年　保健の科学
1984年　学校保健研究
1984年　こころの科学と現代　日本評論社
1984年　現代の性　　からだの科学
1978年　海外教科書制度調査